

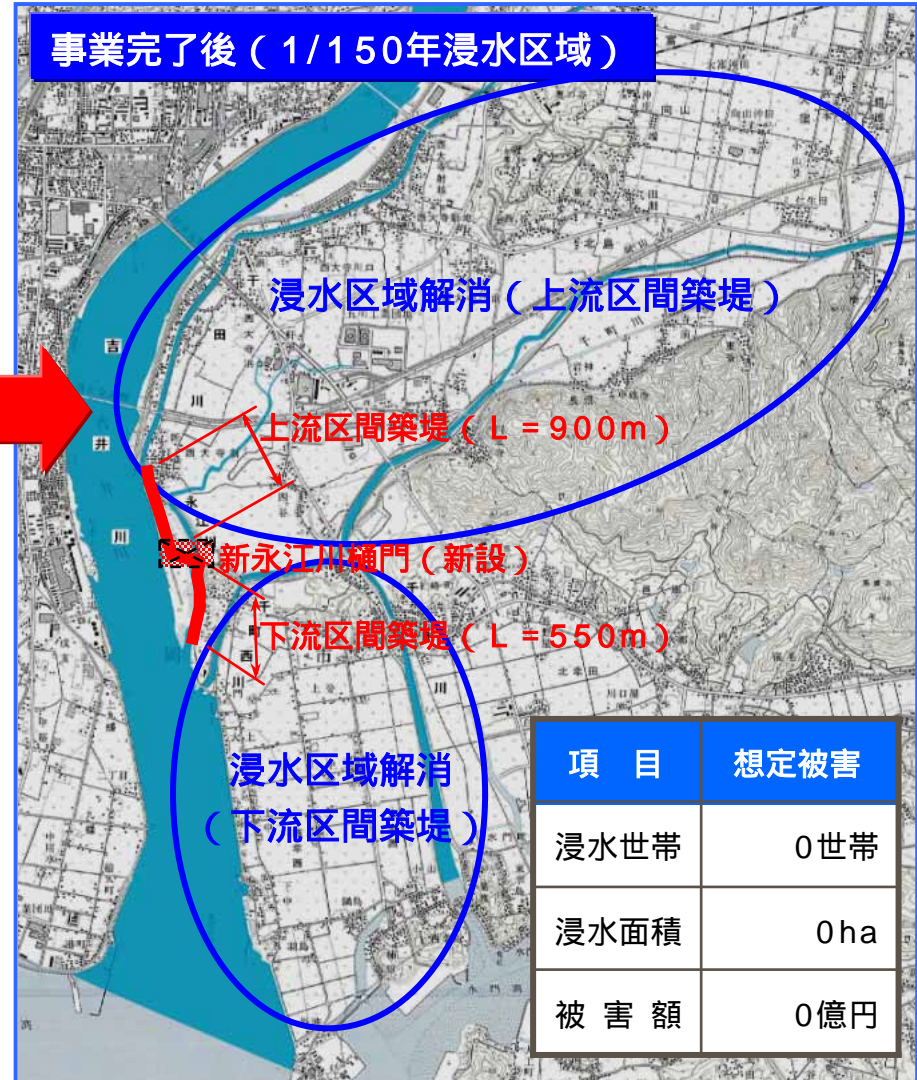
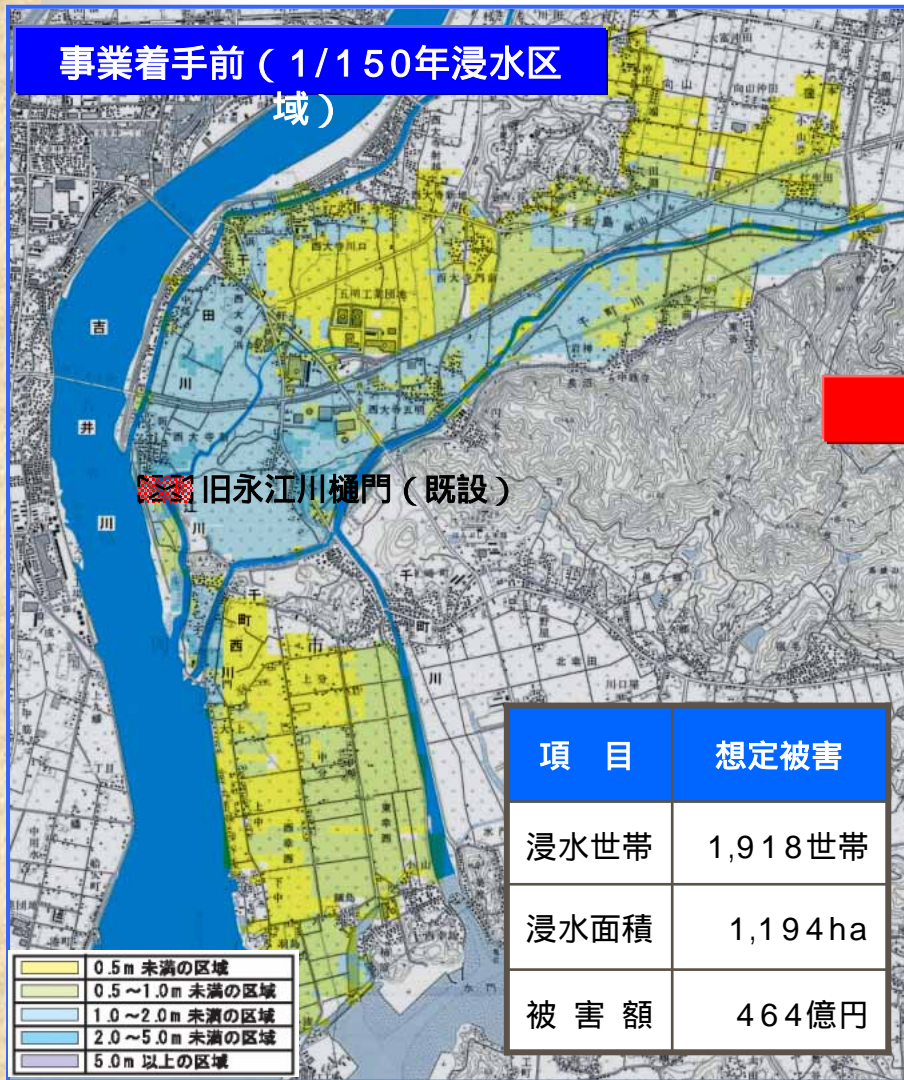
# 事業の進捗状況と予定

進捗率 41%

年	事項
平成7年度 平成9年度 平成10年度 平成11年度 平成13年度	吉井川直轄河川改修事業（乙子地区）に着手 用地買収に着手 <b>用地買収が完了</b> （進捗率：100%） 新永江川樋門の施工に着手 <b>新永江川樋門が完成</b> （進捗率：100%） 永江川局部改良事業が完了（岡山県）
平成15年度	新永江川樋門下流 吉井川本川築堤・護岸に着手
今後の予定	<u>新永江川樋門下流 吉井川本川築堤・護岸、掘削</u> <u>新永江川樋門上流 吉井川本川築堤</u> <u>旧永江川樋門の撤去</u>
平成20年代前半	<b>事業完了予定</b>

# 治水効果

- 事業が完了すると乙子地区からの浸水は全て解消され、地区の安全度は大幅に向上する。



# 再評価の視点

## 事業の必要性に関する視点

### 洪水発生時の影響

### 想定氾濫区域内の被害 (計画規模相当の洪水が発生した場合)

- ・浸水面積 : 1,194 ha
- ・浸水田面積 : 794 ha
- ・浸水人口 : 6,087 人
- ・浸水畑面積 : 10 ha
- ・浸水世帯数 : 1,918 世帯
- ・想定被害額 : 464億円 (一般資産額 : 1,526億円)

### 重要な公共施設等

- ・医療・福祉施設  
老人保健施設 さくら苑
- ・教育施設  
豊小学校、今城小学校
- ・交通網  
岡山ブルーライン、県道岡山牛窓線  
県道西大寺備前線、市道西大寺浜西幸西線(建設中)  
JR 赤穂線大富駅

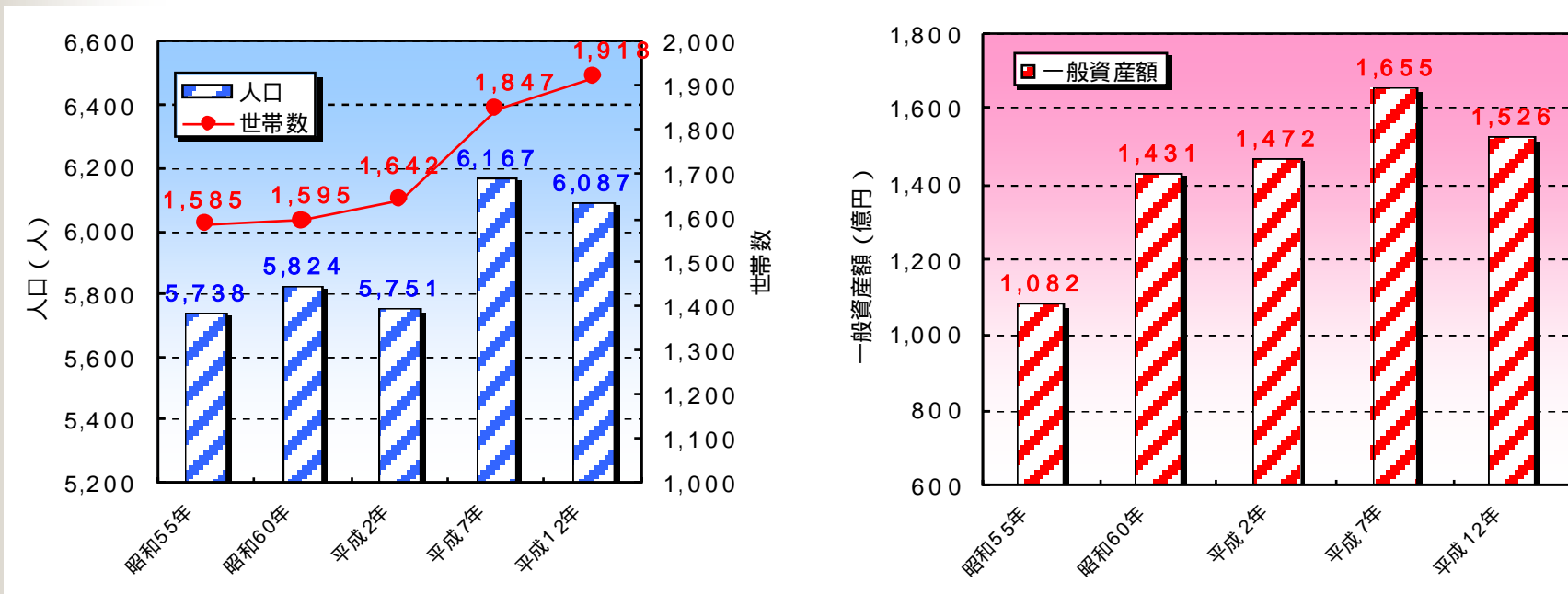
# 地域の状況(人口・工業)

## ■ 人口・世帯数の推移

乙子地区では、岡山市の通勤圏として世帯数が2割増加している。  
(昭和55年比)

## ■ 資産額・製造品出荷額の推移

五明工業団地等の建設で、地域の一般資産額は約4割増加(昭和55年比)しており、新産業ゾーンの建設により、今後も更に増加していくことが予想される。



\* 想定氾濫区域内の推移(国勢調査データにより集計)

# 地域の状況(協力)

乙子箇所の築堤完成により吉井川下流左岸全域の洪水被害の軽減を図る。

## 地域社会

河川管理（清掃、パトロール）の参画  
関係町内会、市民団体等による河川空間を利用した各活動の推進  
河川愛護活動、啓発活動の推進

工事区間の希少貝類を保護するために移植作業している様子



オカミミガイ ヒロクチカノコ

各種協議会、イベント  
ワークショップなどの開催



協働実施

評価・公表(テレビ、新聞など)



## 河川事業

洪水を安全かつ確実に流下させる築堤の整備（無堤箇所の解消）  
自然環境の保全  
河川堤防景観設計に対する地域社会の提案の反映  
わかりやすい事業説明会  
永江川干潟の環境に関する勉強会



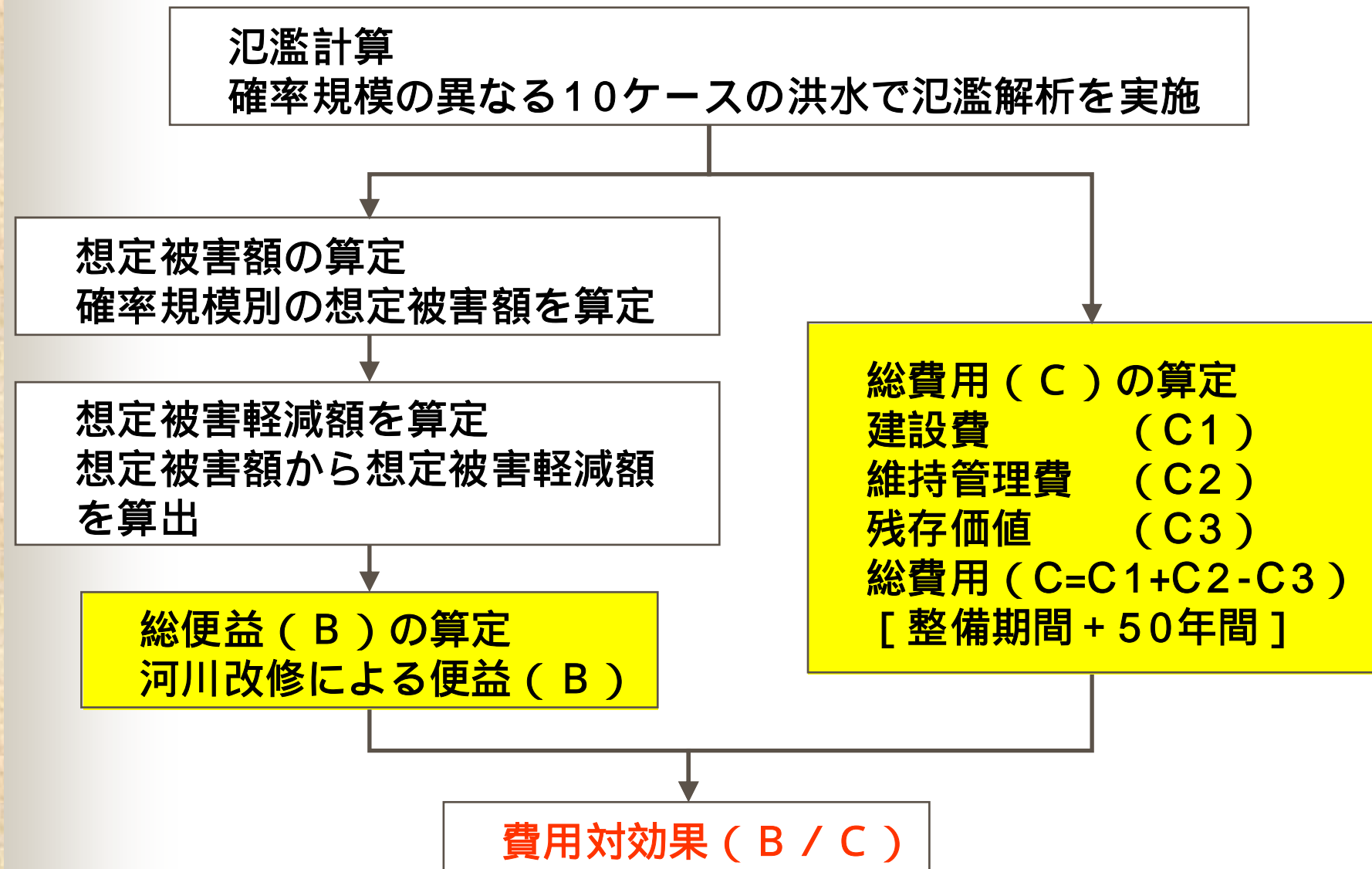
希少貝類の保全



現地勉強会の様子

地域に愛される河川空間と、より適切な事業（整備・管理）の実現

# 費用対効果の検討手法概要



# 費用対効果の分析結果

- 想定年平均被害軽減期待額 14.4 (626.1) 億円
- 総便益 ( B ) 331.6 (2,302.8) 億円

- 
- 建設費 54.9 (865.2) 億円
  - 維持管理費 6.5 (20.4) 億円
  - 残存価値 1.3 (0.5) 億円
  - 総費用 ( C ) 60.1 (885.1) 億円

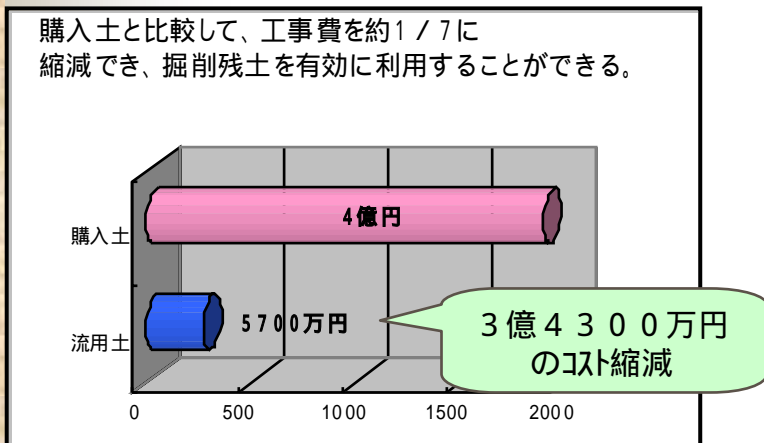
- 
- 費用対効果 ( B / C ) 5.5 (2.6)

( ) : 水系全体【直轄管理区間】

# コスト縮減の可能性

## 千躰旧堤掘削土を乙子築堤護岸工事の築堤材料に使用

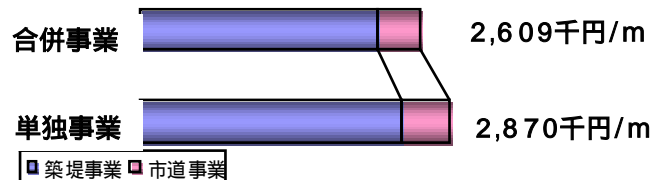
購入土と比較して、工事費を約1/7に縮減でき、掘削残土を有効に利用することができる。



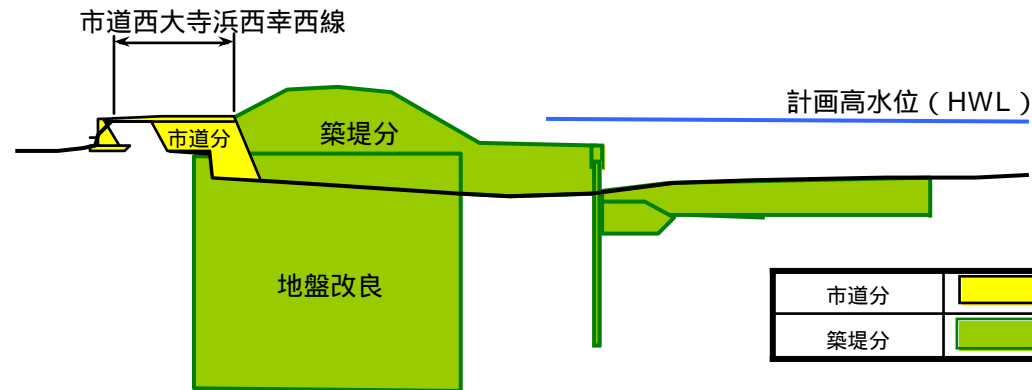
## 岡山市市道との合併施工によるコスト縮減

### コスト縮減効果

築堤及び市道の合併施工を行うことで、約9% (1m当たり261千円)のコスト縮減が図れる。



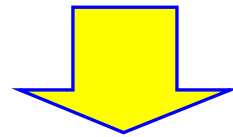
### 合併施工横断面図





## 事業の進捗状況と見込み

- 平成15年度までの進捗率は約41%である。
- 用地買収は完了し、新永江川樋門も既に完成して、現在築堤に向けた地盤改良も順調に進捗している。
- 平成19年度までに樋門下流の無堤部の築堤を完了するため、現在、岡山市と協定を結んで合併施工を実施している。また、樋門上流区間の築堤は、既設の暫定堤防を完成堤防へ嵩上げを行うのみであり、当該箇所の事業計画は妥当であると考えている。



平成20年代前半の事業の完了に向けて、地域との連携を更に深めつつ事業を継続する。